

2021年3月26日

参議院議員 尾辻秀久 様

鹿児島県保険医協会
会長 高岡 茂

**国民生活の困難を打開する国会審議を
「75歳以上の医療費窓口負担2割導入」は徹底審議の上、
撤回・廃案を求めます**

貴職におかれましては、連日国政の重責を果たされていますことに敬意を表します。

本会は、鹿児島県内の医師・歯科医師1251人で構成し、国民医療の向上へ向けた活動をしている団体です。

今国会で、「75歳以上の医療費窓口負担2割化」を内容とする関連法案の審議が始まろうとしています。政府は、関連法案について、複数の法案を一括した「束ね法案」として提出しています。一つ一つ徹底して審議すべき重要な法案を一括りにして提案する手法は、立法府である国会の審議をないがしろにするもので看過できません。

また、新型コロナウイルス感染拡大の下で、国民生活はより一層困難になり、また「受診手控え」による健康悪化など、健康にも不安を感じている高齢者が多い中、受診抑制につながる窓口負担の引き上げを行うべきではありません。

多くの人は高齢になるほど収入が減少する一方、疾病を多く抱えます。75歳以上の高齢者は原則1割負担の今でも、年収に対する窓口負担額の割合は現役世代（30～50歳代）よりも2～6倍も高くなっています。また、公的年金の抑制、消費税増税による物価上昇、相次ぐ医療や介護の負担増で、多くの高齢者は貯蓄を切り崩し、働き続けながら必要な経費を切り詰め、どうにか生活を維持している状況です。この上、医療費窓口負担が2割になれば、高齢者の命と健康に大きな影響が及ぶことは明らかです。このコロナ禍に高齢者の窓口負担増を推し進める冷たい政治をこれ以上続けさせるわけにはいきません。このことは秋までに行われる総選挙でも大きな争点となるはずです。

私たちは、75歳以上の窓口負担2割導入に関わる法案は切り離して徹底審議し、廃案・撤回することを強く求めます。

以上